イメージ導入カウンセリングにおける擬人化イメージ内容の MVAS(門前語彙分析システム)による検討

擬人化イメージ内容と非擬人化イメージ内容を「主体との関係」と「心の情緒的活動」の側面から検討する

門前豊志子

(門前研究所)

キーワード: 擬人化・非擬人化イメージ内容 2 側面 MVAS

Analysis of Personified animals in image by the Method of MVAS(MONZEN Vocabulary Analysis System)

Toshiko MONZEN

(MONZEN Research Institute)

Key words: Image contents 2 dimensions MVAS

問 題

カウンセリングによるかわりには、主として言語を媒体とした相互力動的な関係であり、カウンセラー・クライアントとの力動的関係による心的変化の過程であると考えられる。従って、カウンセリングでは、クライアントが問題とする事柄ないしはテーマを共に考えて、クライアントがこれまで囚われていたこだわりから自由になって、自分自身の生きる方向への道を見出し、いける関わり方が求められるといえる。言語を媒体として理解する背景には、内的世界を形成し、自己を表現する手段としての言葉が、社会に生きる個としてのクライアントの考え方、価値観および感情生活を知る上で、大きな手がかりを与えてくれると考えられるからである。

目的

クライアントの内的世界を理解するために、イメージを導入したカウンセリングを試みている。今回のクライアントは、イメージに擬人化された内容が特徴的に見られた。クライアントの内的世界を理解する試みとして、擬人化されたイメージと非擬人化イメージ内容に焦点をあて、MVAS によって、人間関係を中心とした「主体との関係」と「心の情緒的活動」の2側面から分析することを目的とする。

方 法

対象 来談時 34 歳の女性。

症状 30 歳位から洗淨強迫症・外出恐怖症状を呈していた。
イメージ導入カウンセリングについて 60 分のカウンセリングの最後 10 分間に施行する。「野原」のイメージを想起させてイメージの喚起を促す。今回は、イメージ開始後 30 回のイメージ内容を取り上げる。

分析方法 イメージ内容を MVAS によって分析する。MVAS による語彙分析は国立国語研究所の 10 万語の語彙分類基準表をもとに、門前 進が臨床のデータベースとして、30 万語に語彙を増やし、体系的に分類して作成した語彙分類の分析方法である。

今回は、イメージ内容を擬人化イメージ内容と非擬人化イメージ内容に分けて、「主体との関係」を中心に 4 要因、「心の情緒的活動」を中心に 2 要因に分類して分析を試みた。「主体との関係」は、(1)主体と家族(1.2-1.29) (2)主体と他者(1.2-1.25) (3)主体と自然など(2.10-2.19) (4)主体の存在(3.10-3.15)の 4 要因からなる。「心の情緒的活動」は、(1)気分・感情状態など(1.3-1.33) (2)情緒的活動(2.3-3.36)の 2 要因からなる。括弧内の数字は共に MVAS による分類番号である。

分析手続き 想起されたイメージ内容を各反応ごとに、設定した語彙分類基準に基づき分類・集計をする。それらの集計結果を基にして、統計的処理をする。

結 果

上記の方法で 30 回のイメージ内容について擬人化・非擬人化内容のイメージ回数 2 群間の特徴と、同じく「主体との関係」、「心の情緒的活動」について 2 群間の分散分析を行った結果を、図 1、図 2 と図 3 に示す。(図 1 はイメージ回での比較結果である)。

図 2. 主体との関係における擬人化・非擬人化内容の比較結果

図 3. 心の情緒的活動における擬人化・非擬人化内容の..

考 察

1. 擬人化イメージと非擬人化イメージ内容について 擬人化イメージは、前半 10 回目くらいに集中している。内容的には、母親(虎)に対する恐怖や不安、父親(ネズミ)への憎しみが顕著に認められる反面、妹(山羊)や夫(鹿)には好意的である。このクライアントにとって、両親に対する強い怖さや不安感のために、自分を出せず、直接的情緒交流ができずに感情を抑えるしかない関係であることがわかる。主体(私)の存在を示した非擬人化イメージにおいても、自然や街との関係が多く、現実の他者との関係が少ないのが特徴である。両親に対する恐れは、非擬人化イメージでは、怒りや腹立ちの感情が表現されて、自我を抑えられた怒りの感情を意識化できる方向へと変化しつつあることがわかる。このような両親との関係は主体としての存在が認められないという虚無感や寂しさ、悲しさや抑鬱的な気分大きな影響を与えているのではないかと考えられる。

2. 擬人化の持つ意味について 擬人化することによって、両親を対象化することができ、対峙できる心の準備状態ができていったと考えられる。擬人化をへて、擬人化せずとも自己の怒りや悲しみの感情を表出できると同時に主体自身の内的感情世界における抑鬱的な気分や悲しみなどをイメージ体験によって、受け入れていくことができるようになった。